

## 鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和2年度第2回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和2年12月22日（月）13:30～16:50
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 第2委員会室
議題	1. 鳥羽市教育ビジョンについて 2. 通学区再編（学校統廃合）について 3. その他
会議資料	【資料1】鳥羽市教育ビジョン（案） 【資料2】鳥羽市小中学校統合計画（案）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員：奥村楠治、浅尾美沙、江崎ユミ、中村和久
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市教育委員会] 山本総務課長、岩本学校教育課長、岩井生涯学習課長、 寺本課長補佐、天田係長 [鳥羽市総務課] 中村課長、中村課長補佐

### 開会・市長あいさつ

#### 1. 鳥羽市教育ビジョンについて

（教育委員会学校教育課長より鳥羽市教育ビジョン（案）について説明。）

##### ○教育長

目標のところだが、学校ではよく「知」「徳」「体」を言われており、各学校の目標をそこに合わせている。新しい21世紀の世の中を生きていく力として何が必要かを考えて定めた。先ず「知性」だが、これは学びにおいて、ものの道理も弁える、科学の力とか真理を見極める、そういう力も絶対必要と思う。これはただ単に勉強ができるということではなく、真理を見極める力を身につけてほしいという思いを込めている。それから「感性」だが、人の痛みや願いが分かる、といったことはこれからの時代を生きていくのに大事な力だと思うので、格差社会の中、「自分さえ良ければいい」ではなく、人の痛みをわかり、美しいものを美しいと感じ感動する力とかも重要な力だと思っている。それから「理性」というのは、混乱の社会が予想される中で、自分が正しいと思うことを自分が行動に移せて守っていく、といった理念をもってこれからの鳥羽の教育を進めていきたいという願いがある。これだけでは言葉が足りないが、多様な社会はいろんな選択肢があって、どんな困難が待ち構えているのか分からないから、かつての「知」「徳」「体」に新しい時代に沿った目標として挙げさせていただいた。

##### ○市長

先ほど言われた「知」「徳」「体」は、今現在も学校で言われているのか。

##### ○教育長

「知」「徳」「体」は学校の基本的な目指す目標である。ただ、50年も言われていることであり、それでどういった教育をしていったかという、「知」「徳」「体」の中には、ある程度完成された社会の中で組み込まれていくような労働者を育成するという概念が見受けられる。社会の一員としてそこに入り、社会を形成していくという願いが込められている。はみ出さない人間というか、新しい時代はそうではなく、（社会から）はみでる人もいて、いろんな考え方があつた。そういった集合体で社会が成り立つ。お互いは傷つけないように、感性をもちながら理性をもって社会を形成していく、といった状況。そういったことがこれから求められるのではないかと。

##### ○学校教育課長

「知」「徳」「体」は以前と変わらずどの学校でも言われている。

○教育委員

学校では、去年行われていた学校行事が、何十年も変わらず行われている。2030年か2035年には自動車もガソリン車が無くなるとも言われ、社会がどんどん変遷していこうとしている。教育も同じで、変化していかないといけない。人口も減少して行って若い人達が地元に住まないといったことがあり、他所へでていく。そんな中ビジョンにも盛り込まれているが、郷土に対する教育は重要で、親の立場としても取り組んでいかないといけない内容だと思う。学校がきっかけになり、鳥羽の魅力をより知ることになり、鳥羽に住むことに繋がればいいと思う。学校の統合の話を知ると、学校が無くなるのは寂しいと各論では聞くが、学校の規模が小さくなるので、(郷土の)魅力をより知ることができればと思う。そういったことがこのビジョンには盛り込まれていると思う。この7、8年の間だけでも学校の雰囲気はかなり違ってきており、子供たちの接し方も全然違う。いろんなところを変えながらやっていかないといけない。

○教育委員

コロナ禍の中で、大人もそうだが子供達にとっても初めての出来事。今までやってきたことが当たり前にならなくなり、実感もしていると思う。今迄の教育も勿論ちゃんとやってきているが、これからは主体的に自分達で何ができるのか、幼くてもできることは何なのか、ということを考えていくことにより、「何をしよう」「何を切り開いていこう」ということが考えられる大人になっていくのではないかと。今回のビジョンにはそういった思いも盛り込まれていると思う。鳥羽は独自で英語教育に力を入れたり、海洋教育に力を入れていくということだが、これは学校だけでは成り立たないので、コミュニティスクールも取り入れていくということで、地域の人達と一緒にやっていかないといけないとか、子供は減ってきているが、地域の人達を巻き込んで一緒にやっていくということは大事かなと思う。それを経験することで、子供達も大きくなった時に、鳥羽の地域の大人達に育ててもらったから恩返しがあればといった、鳥羽の人口が減少になるかもしれないが、それ(人口減少数)が減ったりとか、他所から鳥羽に人を連れてきたりとか、新しい事業を鳥羽でしようとか、そういうことに繋がるかもしれないので、海洋教育や英語教育の支援に市として力をいれてもらいたいと思っている。

○教育長

市長就任の時にも「理想環境」ということを仰っていたが、子供達の親の意見として、「鳥羽は駄目なのではないか」という意見が強くある。人口が減少していく中で、鳥羽の教育はマイナーというか、例えば伊勢の方が良い教育が受けられるのではないかと考えているようだ。そうではないということをお我々はしっかり訴えていかないといけないと思っている。伊勢は伊勢の良さがあると思うが、独自性というか、鳥羽にしかできない教育の良さをしっかりとアピールしていかないといけない。もう一つ「鳥羽の教育は駄目」と言われる要因に、勉強ができないと親が勝手に思い込んでいる。こういった現状がある。今回目標指標の中に全国学力・学習状況調査の数字も取り入れた。実際、鳥羽の子供達は学力的に劣っておらず、今までの指標は文章表現の指標としていたが、それでは弱いと感じ、指標を数値化した。現場の学校にはプレッシャーを与えることになるかもしれないが、しっかり学んでもらい、鳥羽の子供達は全国平均はクリア、時には上回ることを分かってもらい、保護者には鳥羽の教育に誇りをもってもらいたいと考え、今回のビジョンを策定している。

○総務課事務局

1点だけ確認するが、ビジョン P7 の施策Ⅱ「2 環境問題や農水産業を柱とした海洋教育」について、「農」は意識して入れてあるのか。中身的に農の部分を読み取れないが、海洋教育の実施にあたり「水産業」では何か問題があるのか。

○学校教育課長

農業について触れていないとの指摘について、海洋教育を考えるにあたり、海だけでなく、海に繋がる山など森林も含めたことも、海洋教育に繋がると考えて取り入れた。また、鳥羽市は田園があり第1産業もあるので、こういったことも踏まえながら、全体として考えていくということで、敢えて「農水産業」とした。

○総務課事務局

「山を育てて海を育む」といった思いも込めた、という考えでいいか。

○学校教育課長

その通りである。

○教育長

実際、海藻は海で採れるが、植物である。生物の繋がりや連鎖を意識しながら、加茂も答志も相違もどの地区の子も、同じ命題の元、学んでいかないといけない。

○市長

今回コロナ禍の対応で思ったことは、国から（使途が）任されたお金が市町村に分配され、いろんな対策を講じていく中で、すぐに近隣の市町と（対策事業について）比較され、補正予算を編成する度に指摘があった。鳥羽市・伊勢市・志摩市は産業構造が似ているが違う。規模も違うし地形的にも違うのだから、鳥羽に合った事業を展開すると説明するのに苦慮した。教育も似たようなものだと思う。鳥羽ならではの教育、出来ない分野に対しここが苦手な分野だと教育するといった、鳥羽市の特徴を教えるいくことも大事。先ほど教育長も触れていたが海洋教育も最たる例ではないか。もっともベースとなる基礎学力は当然だが頑張らなくてはいけない。親が一番諦めているといった自尊心のマイナス、或いは地域に対する感情がマイナスになっているのかなと感じる。親に対しても（アピールを）頑張っていないといけない。

○教育委員

市長も言われた鳥羽ならではの特色、先ほどまで行われていた定例の教育委員会でも話題となったが、社会教育について、保護者もみているだけではなく、もっと入り込んで部活や海洋教育について我々ももっと知識や技術も身につけ一緒にやっていかないといけない。それで「鳥羽はすごい」といった「鳥羽モデル」と言われるような教育ができるよう仕掛けていかないといけないということを委員会では話をしていた。時代背景も変遷していく中で当然目指している目標も変わっていくし、やり方も変わっていく。大人も勉強しながらそれに沿って子供たちに我々がついていかないといけない。

○総務課事務局

海洋教育の観点からも何かご意見は。

○教育委員

鏡浦で（海洋教育ともいえる）授業をやっていた。ほかの地区でも行った方がいいと思う。他に組み込んでいる例はないのか。

○教育長

答志地区だとワカメについて学んでいる。

○総務課事務局

水産研究所も本土側に出来たので、そこに岩尾という海藻の博士がいるが非常におもしろい職員で子供達の注目を集めるのも上手。海上の筏とかは低学年には危ないのでそこを拠点として（教育委員会が）あの施設を有効活用していけばいいのではないかと。そこに実際に生業としている方達が加わり体験談等話を話してもらえれば。

○市長

鳥羽小学校でふるさと給食があって、その前に海藻の授業があった。そこで岩尾君がアラメとカジメの違いといった海藻の授業をしたが、話の導入部分で「今から話すことは君達が一生二度とする話ではなく聞くことのない話かもしれない。世の中で全く役に立たないがそれでも聞いてくれるか。」と言って話し始めた。そういう無駄なことが（いい話として）すぐく耳に残る。何か学びの基本なことを諭された気がして鳥肌が立った。こういうのも個人の個性なんだろうが、海藻を切り口とする話をするうえですごくよかった。子供達も一生懸命に聞いていた。

○教育委員

授業内容よりもそういう心をつかむ話はいつまでも子供達は覚えている。

○市長

他にも、水産研究所で水槽から好きなものをもって物を比べるというか二つ取らせて特徴を絵に描かせている。そのこと（手に取った生物）について知らなくてもいいけど、物の違いというのを表現する方法、分析する能力というのを彼は教えたいのだろうと思った。また、照明で明るさを聞く機械を手に取り、何をもって明るいというか、ということを小学生に教えている。明るさと言ってもそれこそたくさん種類がある。私達も教えたくてもそんなこと学んだ記憶がなく、単純な表現しかできないが、学術的にはそれでは駄目だと（本来は関係のない）水産研究所で教えている。

○総務課事務局

(水産研究所) 2 階に調理室もあるので、海藻などの「食育」という観点からも活用できる施設となっている。

○教育委員

子供達もそういったこと(食育)をきっかけに家に帰り、祖父や祖母に聞いたりしている。そういったことで広がりが出ていく。私の祖母は海女だったが、いろいろと教えてもらうことで興味を持って女性なら(生業として)海女に就きたいと考えるのではないか。こういう時代になり、特徴のある地元愛を持ってもらえる一つのきっかけにしてもらえればいい。市長の話聞いて(岩尾氏の)話を聞きたくなった。

○総務課事務局

教育ビジョンについて他にご意見は。

○市長

大綱と教育ビジョンのそれぞれの番号との連動制についてももう少し整理が必要では。

○総務課事務局

指摘のあった点を事務局で修正させてもらうとして、大筋では資料 1 を次期教育ビジョンとしてよろしいか。

○教育長

1 点だけ確認したいのは感性を育むというところの「アート」について。教育ビジョンでどう具体性を持たせるのかが悩みどころ。

○教委生涯学習課長

県や他の市町の教育ビジョンを確認したが、教育部署としてこのアートに触れている教育ビジョンはあまりなかった。そもそも「生涯学習」を教育部署として所掌しているところが少ない。市の方向性というか、初めて盛り込むので試行錯誤していくしかないが非常に悩みどころ。

○市長

他所がやっていないのであれば、逆に鳥羽市が先進市となるのでは。

○教委生涯学習課長

他所をいくつか視察させてもらったが、例えば伊勢市がコロナ対策でアーティストを募集したら何千人も応募があったということで、確かに感性や多様性という観点から見ると、アートというのはフィットしていると思う。ただ、正直なところ鳥羽市はまだアートという側面をみるとまだ(歴史は)浅く思う。そういった状況でどう深めていくのかということが難しいところだ。

○教育長

学校教育でこのアートを身近に感じる仕掛けや仕組みが必要と思う。例えばお金を要するが鳥羽東中学校には使わなくなった美術室がある。そこに美術の授業で書いた、或いは子供達がクラブで描いた絵を展示してギャラリーにするとか、ピアノを得意な人が昼休みに弾きたいと思えば弾けるといった自由な環境を身近に創り出していくといったことで何か感じるものができるのではないかと思う。実際、小学生に絵を描かせるとものすごい才能を感じる子がいる。しかしこの子が中学生になると、部活は運動部に入ることで美術の道が途絶える、といったことが起こる。こういう子供達の才能がちゃんと開花する仕組みづくりが結局アートに繋がるのではないか。また子供の将来にも繋がる。統一的に中学校に入学すると運動部に入り、勉強して受験していただくだけではなく、またそういう才能を見抜けることが先生にも求められる。美術の免許をもった先生とか音楽や家庭科の授業に秀でた先生とか、(そういった先生がいることで)人を発掘できる。子供達もやる気をだし、未来が拓けると思う。そういう仕組みづくりをアートについて我々は意図して作っていかないといけない。

○総務課事務局

地元での体験として、例えば子供達に浜で石を拾わせ、その石に海藻の絵を描かせた。そうしたところ、自由な発想で想像していない色使いとか形を描きだした。それが「=アート」ではないだろうか。そういった表現が(教育ビジョンの取組に)はいることで、地元の人たちが加わり、子供達にそういったことをさせる機運を盛り上げていかないといけないと思う。例えばビジョン P38 の主な取組についての記述、「②市民との交流の創出」について、逆に具体的に記述しすぎているのではないだろうか。例えば「アートに触れる機会」「アートを体感させる機会」などでもいいのではないか。具体的に記述しない

ことで逆に広がりができるのでは。

○教育長

各小学校で設置をしていく予定のコミュニティスクールにおいても、観点として入れていければ。そういう意味では相違は熱心なのではないか。

○教育委員

鳥羽という場所の特色があつていいと思う。どこの場所かは忘れたが星野リゾートが美術を生業としている人を無料で泊めて、描いてもらった作品はここに寄贈してもらうという取組をテレビで紹介していた。おもしろい取組だと思った。そういうところ（美術を生業とする人の生活）を救ってもらえるというところがあれば、（鳥羽は）ホテルも旅館もあるのでやろうと思えばできるのではないかと思う。教育ビジョンに「アート」と明記していることはすごくいいと思う。子供達の中にこの分野に興味を持つ子供が現れるかもしれない。鳥羽の特色と併せながら多様な取組としてそういった取り組みに取り組んでもらえば。

○市長

鳥羽クラフト展の立ち上げ時から関わっているが、あれをやりたいと思ったきっかけは鳥羽の市民の人達が鳥羽で（アートに）触れてもらえる、という場を作りたかった。アートの素晴らしいところに行くのではなく、鳥羽で（クラフト作成を）強制させたり、感動を押し付けたいとは思わないが、各自が刺激を感じてもらえればという思いだった。そういった刺激が日常であればいい。

○総務課事務局

議論が尽きないが、頂いた意見を基に今回のビジョン案を微修正して、パブリックコメントの手続きを経るということでよろしいか。

（全員賛成）

## 2. 通学区再編（学校統廃合）

（教育委員会総務課長より鳥羽市小中学校統合計画（案）について説明。）

○教育委員

長岡の方もこれより前の元年の6月に「長岡教育の明日を考える委員会」が発足して1年間で鳥羽東中学校に統合するという結論に至った。保護者が抱いていた潜在的意見や考えについて、アンケート等を通じて顕在化させ統合へと至った。教育委員会は保護者への説明会だけでなく、各地域に対しても説明会を実施していた。また（方針が）決定してからも丁寧に説明をしていた。あとは令和4年の統合へ向けて進んでいくことになっている。時代の流れとして、感情的には学校存続を希望する声もあったが「止む無し」との結論に至った。子供のことを思うならメリットを享受したいという思いだったと思う。長岡ではそうだったが、いろんな地域でいろんな考え方があるとは思ふ。

○教育委員

答志地区においても何度か説明会をしてもらったが、船という交通手段が一番のネック。離島という特殊な環境下の中で後々の後継者がいなくなるのではないかと心配が大きい。保護者や地域に対しての説明会を通じて様々な意見をいただいているところだが、令和4年（の統合）には間に合わなかった。地域としてはできる限り存続してほしいという意見が強くある。ただ、今年答志島で生まれる子供が2人で一つ上の学年でも4人。そんな人数で（今後学校として）成り立つのかという問題があるので、単純に反対ばかりしているのではなく、市の力も借りて交通等子供達の教育環境が整えられればいいなと思う。

○教育委員

今回の計画を策定するにあたり、教育委員会事務局はすごく丁寧に説明していたと思う。すべての地区で説明会をするなど、保護者のみならず地域の意見もなるべく吸い上げたいという意思を感じる。今回の計画は地域の方にとっても理解が得られやすいのではないかと。人口が減っていくので（廃校は）致し方ないところはあるが、その分残っていく学校が魅力的であれば、「統合したい」と思ってもらえるし、またそういう学校になる必要があると思うと、教育ビジョンでも触れているが魅力的な教育活動ともリンクしていかないといけない。鳥羽東中学校に対して未だに怖いイメージを抱いている他の地域の

保護者もいるが、現在は決してそのようなことはなく、すごくいい感じの学校に変わってきている。そういうことを他の学校の保護者に知ってもらいたいと思う。

○教育委員

鏡浦小学校は統合されるということで、小さい学校故にみんなの仲が良いのだが、統合することで学校が大きくなり競争心に煽られる。そのことは悪いことではないが、子供や親の不安が出てくる中で、スクールカウンセラーの配置や相談窓口の強化に着手してくれるというのはありがたいと思う。

○教育長

文科省が示している（学校の）適正規模で言うと、鳥羽市は1学年100人いないので、小学校、中学校それぞれ1校でいいとなる。しかしそれでは理解が得られないので、地域の声も聞きながら、適正規模を考えると、神島は遠隔地故に別としても、中学校は鳥羽東中学校のみ、小学校は学校運営協議会（コミュニティスクール）を設置しながら残していく、こうするしか方法がないと思っている。各地域にはそれぞれの事情があるので、十分に話を聞きながら、意向に沿った形の相談をさせてもらい話を進めていかないといけない。説明会の回数はかなりの数になったが、こちらの考えをきちんと説明してきたつもりでいる。先ほど委員も言われていた通り、学校の規模が大きくなることの弊害は絶対にあり、特に不登校の子供達への対応とか、別の側面でもしっかりしないと空中分裂する可能性がある。いい側面はきちんと残しながら、（保護者が）心配されている点には丁寧に対応していきたい。保護者や地域の人達に対し、「これ（統合案）でいきたい」と我々がお願いするだけでなく、合意してもらったうえで進めていきたいと考えている。

（鳥羽市小中学校統合計画（案）についても全員賛成）

3. その他

（意見なし）